

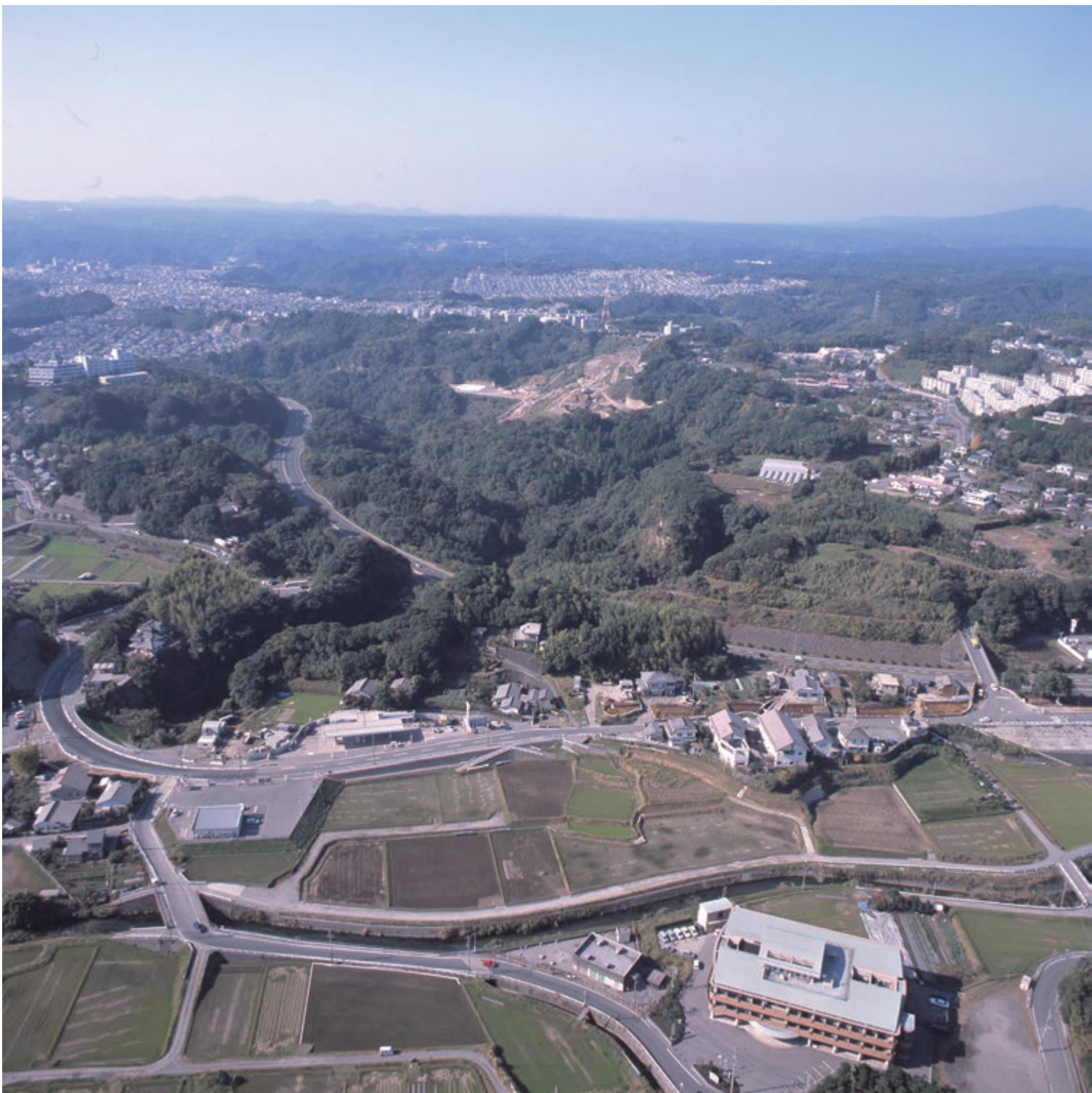
かわ かみ じょう あと

川上城跡

- 1 所在地 鹿児島市川上町加栗山^{かくりやま}
- 2 起因事業 県道鹿児島蒲生線道路整備事業
- 3 調査年度 (発掘調査) 平成 23 年度
(整理作業) 平成 24 年度
- 4 主な時代 古代
- 5 遺跡の概要

川上城跡は、城が機能する以前（古代）が中心の集落遺跡、生産遺跡です。掘立柱建物跡^{ほったてばしらたてものあと} 3 棟と方形土坑^{ほうけい ど こう} 9 基、畠^{うね}の可能性がある畝状遺構^{うねじょういこう}や炉跡^{ろ あと}、土坑^{れきしゅうせき}、礫集積などが検出されました。また、平安時代前半（9 世紀中頃）と考えられる土師器^{はじき}（墨書土器・ヘラ書土器含む）、須恵器^{すえき}、越州窯系青磁^{えっしゅうようけいせいじ}、緑釉陶器^{りょくゆうとうき}、軽石製品などが出土しました。

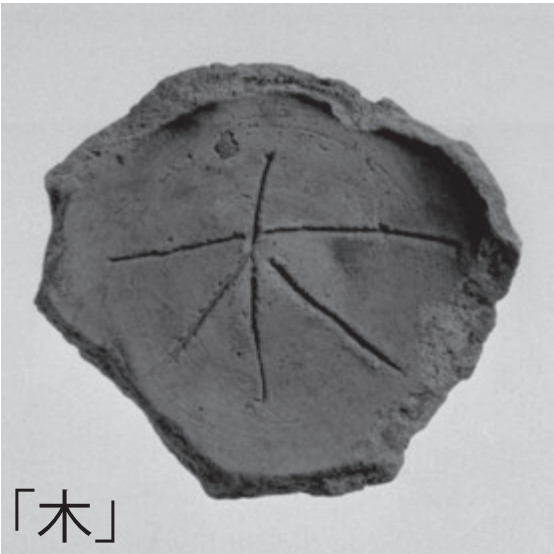
中でも古代の越州窯系青磁、緑釉等器は県内でも出土例が少ないものです。本遺跡で検出された畝状遺構や掘立柱建物跡^{しょうど}、焼土などの遺構は、古代の川上地区に住んでいた人々の生活や生産、そして交流の様子を窺い知ることができる貴重な資料です。



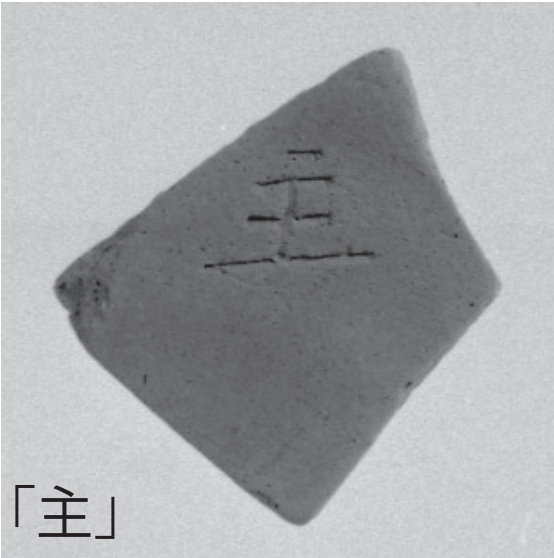
緑釉陶器出土状況



「下田」



「木」



「主」

文字が書かれた土器